opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 77

3ヶ月に及ぶ中南米諸国への 旅行から帰った聖ホセマリア は疲労困憊で、大きな健康上 の問題も生じます。しかし 4ヶ月後、再び中南米に向か います。

2025/07/11

1974年9月1日、3ヶ月に及ぶ中南米諸国への旅行からマドリードに帰った聖ホセマリアは、疲労困憊でした。健康診断をして休息を取るよう

指示されました。その間もできる限 りメンバーと話すか機会を持ちまし た。1月の初旬の団らんで「私はも うすぐ73歳だ。私はこの世から去ろ うとしている | と言っています。そ の後、視力をほとんど失ったり、心 臓の発作で倒れたりしながらも、治 療と休息のおかげで外見上は元気を 回復していき普段の仕事ができるま でになりました。そこで、中南米の 旅行を再開することにしました。医 者たちは、医者を付き添わせスケ ジュールに十分余裕をもたせるこ と、そして1500メートル以上の高地 は避けることを条件に旅行の許可を 与えました。

1975年2月4日ベネズエラの首都カラカスに到着。今回は大勢の人々との団らんにも臨みました(写真上)。いつもように様々話題がでましたが、当時激しくなっていた貧富の差の問題にも触れました。ベネズエラは石油産油国として豊かになってい

ましたが、同時に大勢の貧困者を抱 えていました。どうすれば子供を健 全に育てることができるかという父 親の質問に対して、創立者はこう答 えました。「私なら、子供を散歩に 連れて行きカラカスという大都市の 周囲に広がるスラム街を見せます。 子どもたちが、貧しさのために人間 らしい生活のできない人が一人もい なくなるようにと考えながら、自分 の財産を上手に管理するように導い てください」と。そして、他の人々 の苦しみに無関心でいてはいけな い。みんなが社会に愛と正義が広が るよう働く必要がある、と強調しま した。

15日には中米グアテマラに移動。2月19日に行われたメンバーとの団らんでは、ちょうど霊名の祝日にあたっていたドン・アルバロにお祝いを述べその長年にわたる忠実な奉仕に皆の前で感謝を表しました(写真下)。しかし、体力が尽きました。

もう健康を回復する見込みはありませんでした。そこで23日帰路につきました。空港では枢機卿の強引な頼みを受け、見送りにきていた大勢の人々に祝福を与えました。

3月28日は司祭叙階金祝です。この ころ過去の思い出を話すことが増え てきました。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-77/(2025/12/11)